

2005.02.13 No.6

上野遺跡だより

UENO ISEKI NEWS

〒514-1138 上野遺跡発掘調査現場事務所
三重県久居市戸木町上野6090-4 TEL059-255-8535

久居市教育委員会



第5地区発見の住居1(北より)

第5地区調査成果について

この調査地区は、上野遺跡でも南西部にあたり、調査地区の東側にある自然の谷を望む標高約27mの平坦地に位置しています。

今回発見されたおもな遺構は、弥生時代の方形周溝墓と古墳時代の竪穴住居です。方形周溝墓は合計3基発見されており、墓の四辺に溝があるものが1基、向かい合う二辺だけに溝があるものが2基あります。墳丘は後世に削平されており、埋葬施設は発見できませんでした。これらの時期は、溝から出土した土器から判断して、弥生時代中期頃と考えられます。

古墳時代の竪穴住居は合計6基発見されており、住居1～3は非常にその残り具合が良いものでした。なかでも住居1・3は住居内に設置されていたカマドの痕跡が明瞭です(図3～6)。カマドは、火をくべる炊口付近のみ発見され、炊口の天井部分に用いた、やや扁平で細長い石もそのまま残っていました。この石は直接火を受けたために、赤く変色して非常にもろくなっています。

また石の北側からはカマドの中にすえられていた土器(5世紀頃)が出土しています。

住居1では、住居の南端部に南方向へ伸びる排水溝が作られており、住居の南側にある小さな谷へ水を流せるようにしてありました。

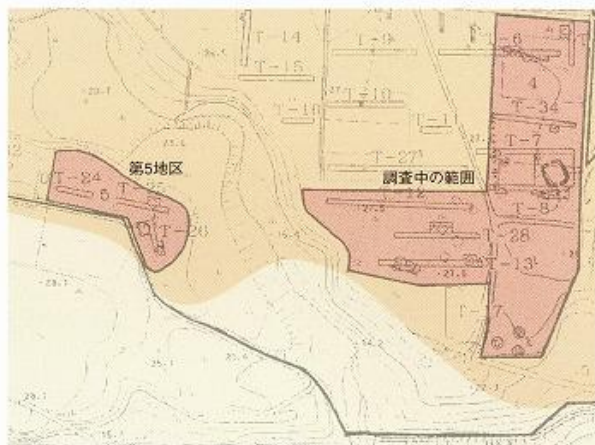


図1 調査地区の配置図

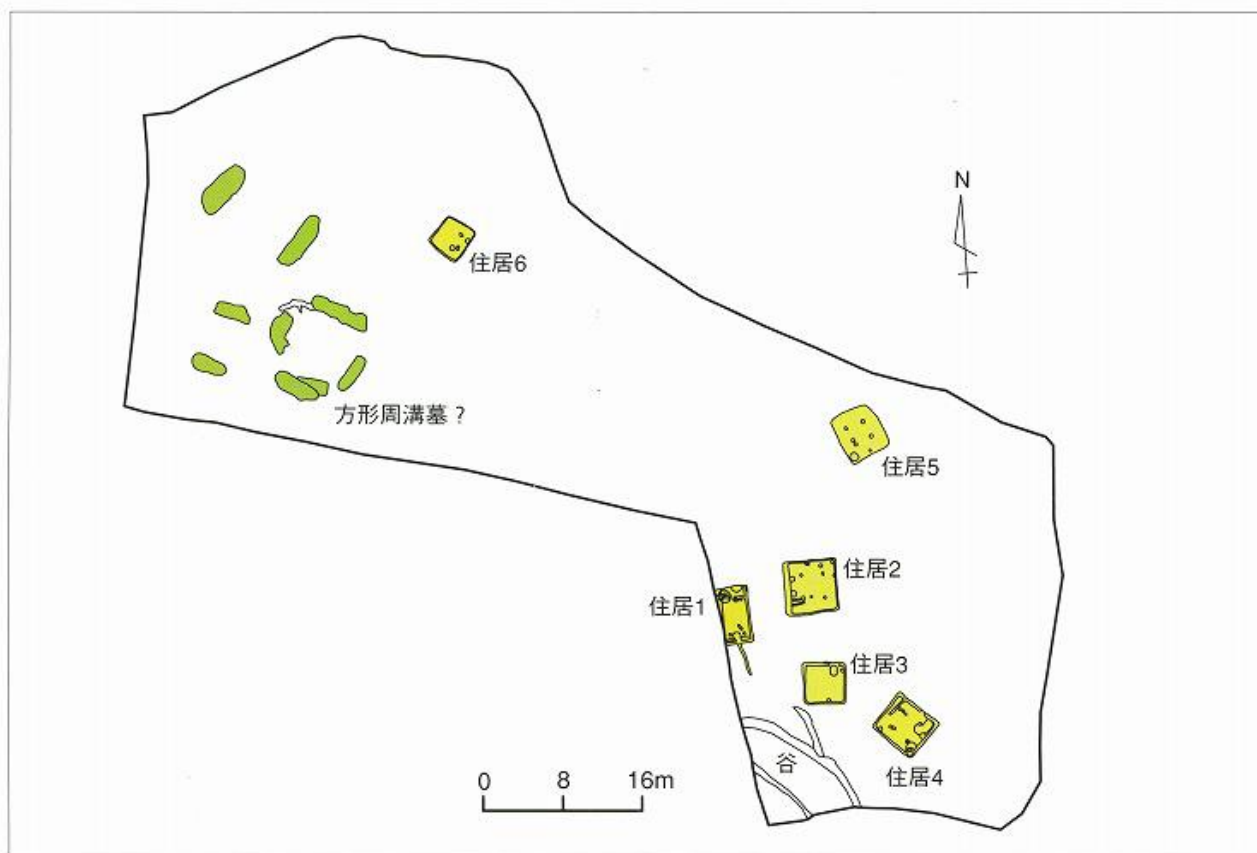


図2 第5地区の主要な遺構の配置図



図3 住居1のカマド(北より)

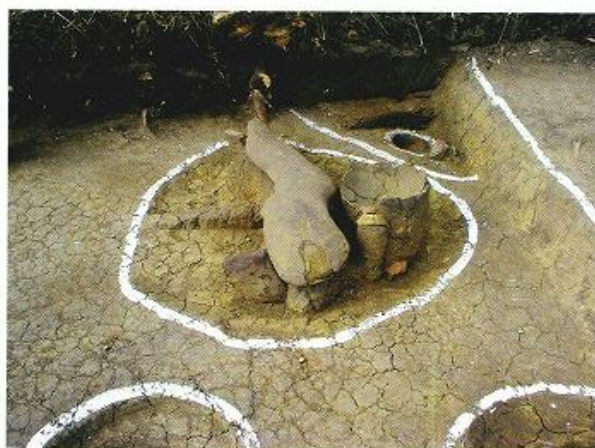


図4 住居1のカマド(東より)



図5 住居3(北より)

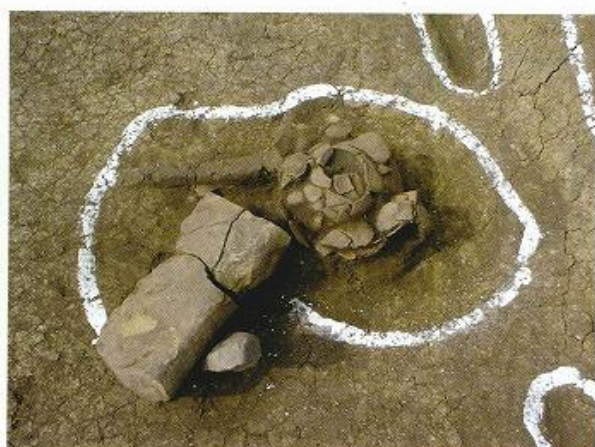


図6 住居3のカマド(東より)



図7 住居6(南東より)



図8 住居6土器出土状況(南東より)

第14地区の調査成果について

この調査地区では、周溝をもつ円墳を一基発見しています（図9）。調査前から、低い土の高まりが確認されており、付近に円墳で構成される上野古墳群があるため、古墳の存在を予想していました。調査を進めて行くと、この土の高まりは墳丘であることが判明しましたが、その大半が後世の攪乱をうけていることもわかりました。推定される古墳の大きさは、直径約12mです。墳丘の土を取り除く作業の過程で埴輪片が出土し、周溝の中からも須恵器の破片が出土しています。

残っていた墳丘の南端付近の表面下約1mあたりからは、横倒しになった円筒型のハニワの破片が出土しました。このハニワは、かなりの攪乱を受けていましたが、本来は古墳の表面に並べられるべきハニワが、墳丘の土中から出土しているため、これは、棺として使用した埋葬施設の一部であると考えられます（図10・11）。

この古墳の築造された時期は、出土したハニワと須恵器の破片から判断して、6世紀の初め頃と推定しています。



図9 円墳の全景(北より)



図10 ハニワ棺の出土状況(西より)



図11 ハニワ棺の出土状況(南より)